



2024年度 活動・本格

川と共に生きる
～変わりゆく川と歩み～

中央大学
西川可穂子

2025年度水・地域イノベーション財団
研究成果発表会
2025年11月27日

本活動の背景

環境保全活動の現場から

- ✓ 水辺で保全活動をするボランティアの方々との経験から、ボランティアに参加する人々の様々な思いを知る
- ✓ 地球温暖化などの環境の変化によって、保全活動の内容も変わってきた
- ✓ 地域への貢献やコミュニティとの繋がりが人生を豊にする一助になる

研究活動の現場から

全地球規模で進む

- ✓ 気候変動による変化
- ✓ 外来種の問題が深刻化
- ✓ プラスチック汚染
- ✓ 河川の水量が減少
- ✓ 生物多様性の減少



北区こどもの水辺 環境教育活動

本活動の背景と目的

- 社会の構成員、産業構造や地球環境の変化により、市民の自然との関わり合いは、徐々に、しかし、着実に変容している
- 海外でも同様な変容が起きているが、課題は様々である



この現在をショートフィルムに記録する

- ✓ 50年後の次世代へこの活動の社会的意義と貢献を残す
- ✓ 身近な水辺空間の環境変容に対峙する人々の活動と思い
- ✓ 日本および海外での水辺空間の課題の違い
- ✓ 世界へ発信（全編英語で発表）

活動内容の概要

ショートフィルムの主題

1. 異なる国で今どのようなことが課題となっているのか？
2. 人々の水辺へ寄せる思い
3. 今後50年間の我々の課題はなんでしょうか？

(What challenges will it face in the next 50 years?)



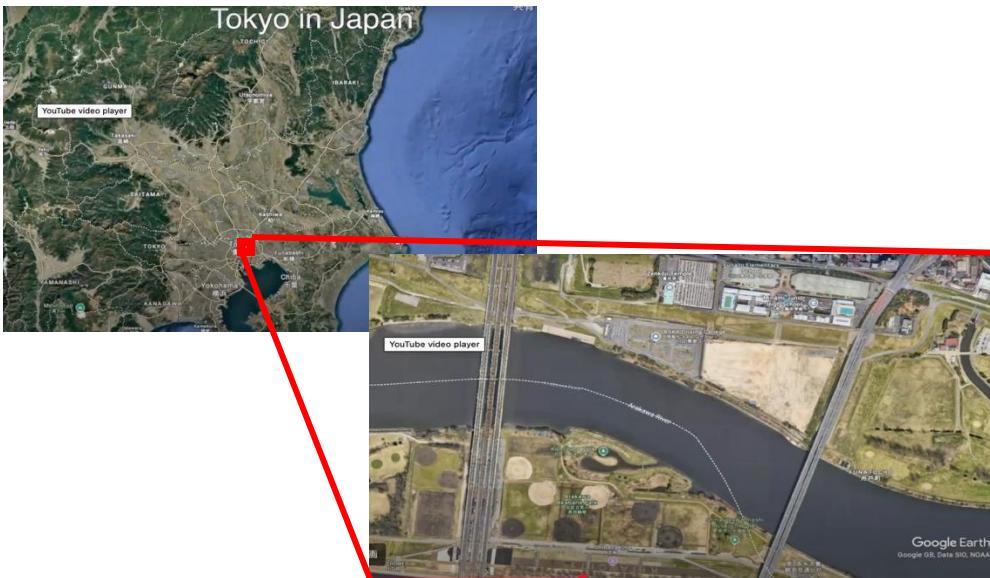
水辺空間に関する市民の声を日本と協力国（マレーシア、イギリス）で取材をし、ドキュメントショートフィルムを作製する

活動報告 1

月日	活動内容
2024年6月	全体会議をweb meetingで実施（協力者：イギリス・インド）
2024年7月	日本の活動対象地区である北区子供の水辺（団体）へ取材の申し込みを行い、子供の水辺の連携協議会へ出席し、活動の趣旨説明
2024年8月	イギリスへ取材
2024年9月	北区子供の水辺 1回目のインタビュー
2024年10月	北区子供の水辺 2回目のインタビュー
2024年11月	動画の編集を始める
2024年12月	当初のメンバーだったインドの協力者と連絡がとれなくなり、他の協力者としてマレーシアの研究者の承諾を得た
2025年1月	イギリスの協力者とweb meeting（マレーシア）
2025年2月	マレーシアへ取材
2025年3月	イギリス・ケンブリッジ大学チャーチルカレッジ・Bill Brown Creative Workshopにてショート動画の最終的な編集仕上げ及び試写会を実施
2026年4月	YouTubeに動画をアップ及び中央大学HPに活動内容をアップ

活動報告 2 北区こどもの水辺

撮影場所：東京都北区こどもの水辺



課題

- ・ボランティア人材の高齢化
- ・外来種の増加
- ・専門的指導者の不足

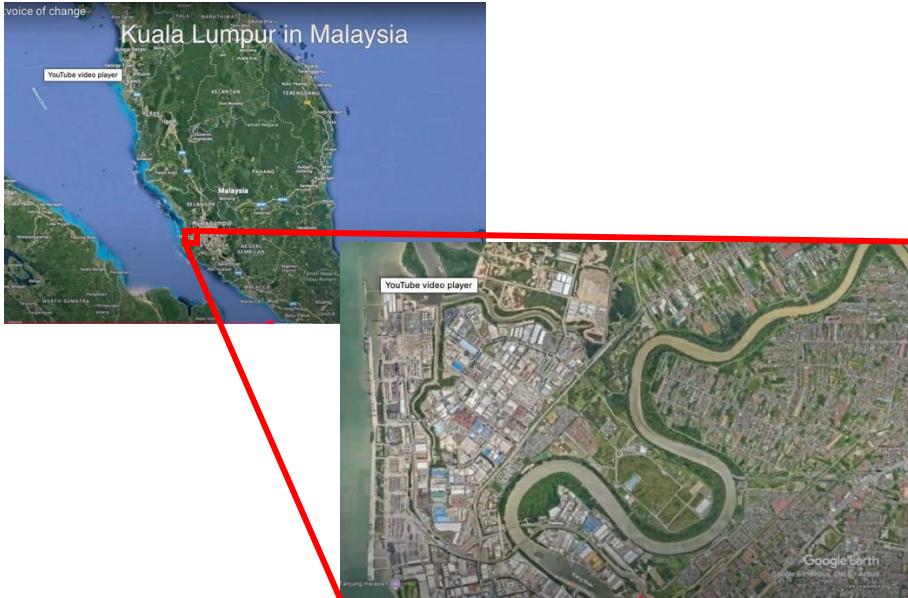


インタビュー対象者
北区水辺の会の皆様



活動報告 3 マレーシア

撮影場所：クアラルンプール（クラン川）



インタビュー対象者
マラヤ大学の大学生
環境NPO法人の活動家

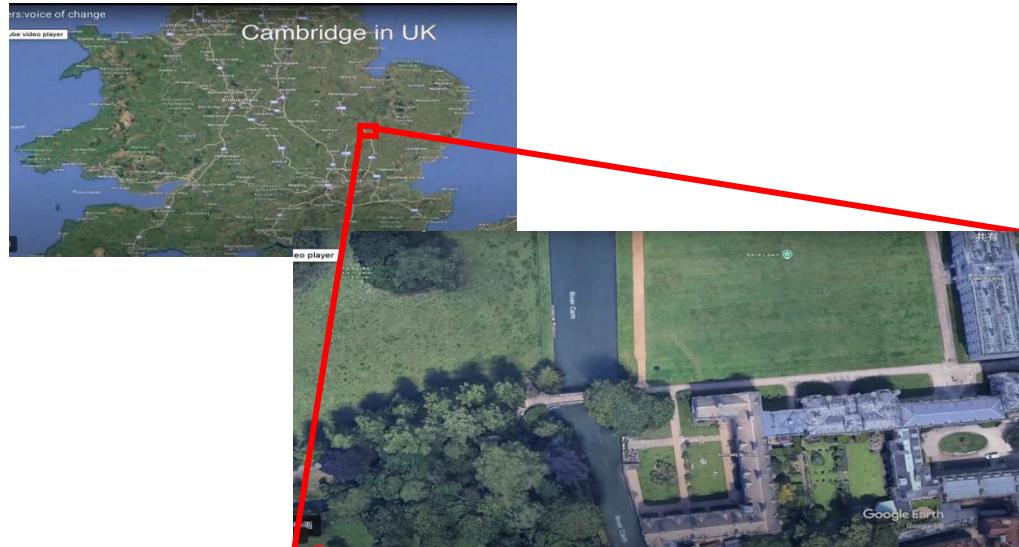
課題

- ・ 川ごみが多く、政府が改善に力を入れている
- ・ 雨季に大量の雨により、大型ごみが川上から川下へ輸送される
- ・ 国民の環境保全意識が低い



活動報告 4 ケンブリッジ (英國)

撮影場所：ケンブリッジ（ケム川）



課題

- ・ 地域開発の波による水質の悪化
- ・ ケム川でのレジャー利用（水泳など）
- ・ ケム川に対する精神性の継続
- ・ パンティングビジネス

インタビュー対象者
ケンブリッジ大学の大学生

完成したショートフィルム



<https://youtu.be/NYPvzZ-tvsl?si=v8gWst8UD2ph8JnA>

完成したショートフィルムを
少しご覧ください。

ショートフィルムの英文タイトル
は、協力者たちと相談して
“Rivers : Voice of Change”
としました。

スピノオフ動画（学生作製）
【環境保全】Our River ~未来へと流
れる川~ 荒川
[https://youtu.be/HC06Pjlei
SY?si=iJN9TvC2jfho2Wcq](https://youtu.be/HC06PjleiSY?si=iJN9TvC2jfho2Wcq)

活動報告 4

YouTubeに公開・試写会



bb_creativeworkshops

Many thanks to all those who participated in the film/screening of our Innovation Foundation for Water and Regional Revitalisation (Japan) funded project on rivers. The workshop brought together colleagues and students who had contributed to the making of the film, including George, Jack and Max from Churchill. It was a 'first draft' for the project which, in collaboration with academics, volunteers and students in Tokyo, Kuala Lumpur and Cambridge, is about the challenges of our rivers in the next fifty years. There will be a public screening and workshop in July which will explore the social, cultural and environmental aspects - as well as challenges - of our shared waterways.

いいね！92件

6月2日

ログインすると「いいね！」やコメントができます。



試写会の様子
BBCWのインスタグラム

試写会の立ち会い
(2025年3月)

BBCWの展示例

活動報告 5 大学HPに公開

<https://plus-c.chuo-u.ac.jp/news/5386/>



商学部教授／全学共通教育・SDGs担当 副学長の西川 可穂子は、一般財団法人 水・地域イノベーション財団による2024年度
活動助成部門□ 本格コースに採択された取り組みである「川と共に生きる～変わりゆく川と歩み～□」の成果として、マレーシア・マラヤ大学、イギリス・ケンブリッジ大学とともに英語版“Rivers: voice of change”のショートフィルムを公開しました。また、関連動画として、学生と共に日本における「【環境保全】Our River～未来へと流れる川～荒川」のショートフィルムも作製し、公開しました。

活動報告 5 大学HPに公開



行動する知性。
中央大学



対象者別
メニュー



アクセス



お問い合わせ



資料請求



Language



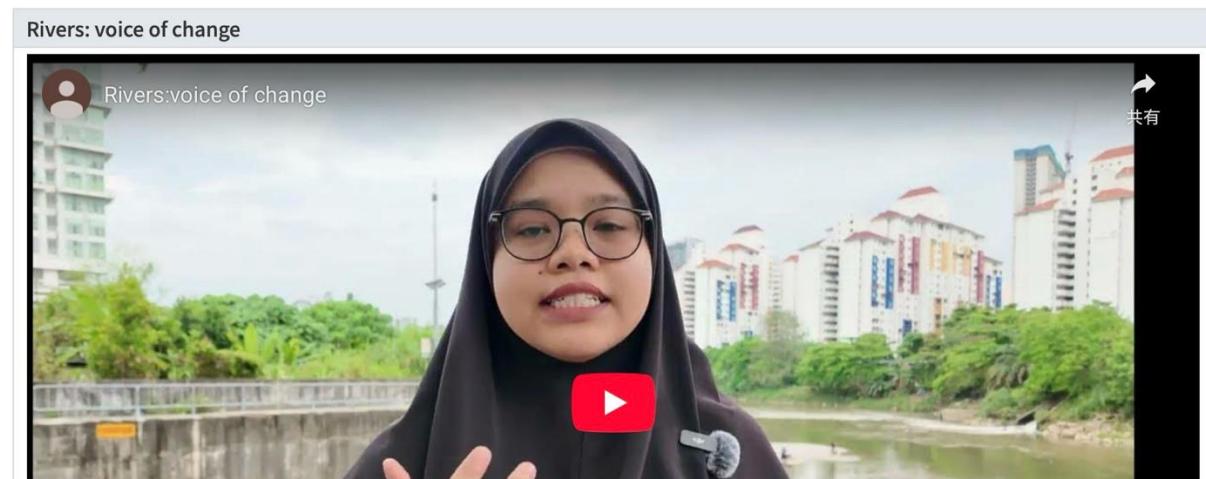
検索

活動助成「川と共に生きる～変わりゆく川と歩み～」の成果動画を公開

2025年04月28日

#中央大学商学部 #西川可穂子 #環境保全 #水辺空間 #動画公開 #SDGs

商学部教授／全学共通教育・SDGs担当 副学長の西川可穂子は、一般財団法人 水・地域イノベーション財団による2024年度 [活動助成部門](#) 本格コースに採択された取り組みである「[川と共に生きる～変わりゆく川と歩み～](#)」の成果として、マレーシア・マラヤ大学、イギリス・ケンブリッジ大学とともに英語版“Rivers: voice of change” のショートフィルムを公開しました。また、関連動画として、学生と共に日本における「【環境保全】Our River ~未来へと流れる川～荒川」のショートフィルムも作製し、公開しました。



↑
Top

<https://www.chuo-u.ac.jp/research>
<https://www.chuo-u.ac.jp/research/news/2025/04/80042/>

まとめ

海外2カ国の参加を得て、水辺空間に関する市民の声をまとめることができた。このショートフィルムを作製したことで、水辺空間に寄せる人々の声が、その国社会課題を映すことを見出した。

取材を通して改めて

- ✓ 水辺空間が人々の生活や精神生活に深く根ざしたものである
- ✓ それぞれの国事情に応じて、水辺空間の第一課題が異なる

課題として

- ✓ 取材は非常に繊細な活動で、国により大きな制約を受ける場合がある
- ✓ ショートフィルムの広報活動（YouTube以外のSNSの併用など）

今後の展望

- ✓ より多くの市民の声を拾い、ドキュメントフィルムを継続的しシリーズ化したい

謝　辞

貴団体のサポートにより、世界の水辺環境に対する人々の声を集めるショートフィルムを初めて作製することができました。

本ショートフィルムのように、異なる国の人々の活動や声を記録したショートフィルムは非常に少なく、本活動の社会的な意義も見出せるものとなりました。

ここに、深謝申し上げますと共に、協力してくださった関係者の皆様にも合わせて御礼を申し上げます。